

森と海の美術展

「森と海の美術展」は、宮城県の中高生と本学の学生・教員が牡鹿半島でフィールドワークを行い、作品を制作するワークショップです。これまで、海底ごみの廃漁網を使ったワークショップなど、地域にある様々な要素をどのように作品にしていけるかの探究を進めてきた実績があり、継続的な交流が続いています。

2024年度の成果は石巻市主催・担当教員監修の企画展として一般公開し、現地で本学学長による公開講評を実施しました。今後も学生および生徒の創造性を開放するとともに、石巻市の新たな魅力の掘り起こしに寄与したいと考えています。

- 地域の探究
(現場でのスケッチ、民俗調査)
- 地域の風土や文化の理解、
素材や資源の可能性をさぐる
- 作品制作と展覧会の開催

※本学と宮城県石巻市は、2024年5月18日(土)に、「石巻市博物館を核とした文化芸術振興に関する連携協力協定」を締結しました。



牡鹿半島の寺の境内で古樹を描きながら中高生に助言する榊山学長



現場でスケッチを描きながら作品制作の取材をする



小中学生対象の廃漁網を使ったワークショップの様子

△ 連携先

石巻市博物館
環境省・牡鹿半島ビジターセンター
重吉興業株式会社
みちのく潮風トレイル 鮎川ハウス ほか

📅 実施期間

2024年～

👤 担当教員

榊山祐和(油絵)
鈴木康広(空間演出デザイン)
加藤幸治(教養文化・学芸員課程)

👥 参加学生の学科

学芸員課程履修者
空間演出デザイン学科
大学院造形研究科美術専攻ほか

👤 参加学生人数

12人